



月刊サカタニ友の会ニュース

原発事故と

昨晩に

避難訓練

(10/24) TVで

流れた、愛媛伊方町にある四国電力伊方原子力発電所で原発事故が起きたことを想定し、半径30キロ圏内の住民に速やかに避難



「一人の生命は地球より重い」と閣総理大臣 福田起夫内

してもらったことなどを目的にした二ユーエを見た。砂浜などにも接岸できる海上自衛隊の特殊な船を使って住民を避難させる初めての訓練も行われたという。

述べてる。日本各地の地震や津波の被害地は多いが、人々の努力で数年で復興してきた。原発が加わって復興の見通しつかない福田起夫氏が総理なら、先の言葉からして「原発廃止」とすぐと思フタが...



人間は電気は無くても、水、空気が、原発事故は「万一」よりはるかに多く起こっている。

見ながらチヨット昔の「臭いも」のは元から断たねば駄目「消臭剤」のCMを思い出し、違和感を持った。日本列島は元々地震の多発地帯、その地震は「雷、火事、親父」より上座に置かれた最大の危険物で且つ完全に予知することは難しい。万一の場合の避難訓練らしい

第9回 駅伝ライブ

主催 駅伝ライブ実行委員会

112時:30開場:開演12:30~18:00

東日本大震災支援:ユニセフ・ハンド・イン・ハンド

協力イベント:参加協力費 500円 中学以下無料

写真は今年もご参加のフラーパットの熱演



領収印付の券提示で出入り可:座れ無い場合有

今回の駅伝ライブは、昨年に引き続き恒例のユニセフ「ハンド・イン・ハンド募金」協力と、2011年3月11日に起こった東日本大震災により被災し、困難な状況にある子どもたちへの募金活動とを併せて行います。一日も早い復興と被災されている皆様が心安らかひょうたん島・ファミリーマートな生活を取り戻されることを祈りつつ、駅伝ライブを東山まち・みらい・行います。「スマートラ沖大津波支援」から始め今回で9回目。ジャズ・フォーク・ポップスなどいろいろなジャンルのミュージシャンが14ユニット以上、ボランティア

第95回:朝粥食べておシャベリ会 報告

定例:10月14日第3日曜日
お話し:「カキナーレ」
若者のホンネ」
講師:深谷純一先生

成安高校国語教師大学非常勤講師:毎日新聞「カキナーレ」連載中の深谷先生が、ご指導の生徒さんの作品集のご本の中から何編かを紹介下さった。「近頃の若い者」がお年寄りをどの様に見ているのかが良く判った。2ページに2編掲載。

お願い 朝粥会は「お粥を造る能力と会場スペース」の関係でご予約40様のメ切にしています。ところが当日四五名様突然欠席がです。どうか前日までにお知らせ下さい



(写真は先生著の「カキナーレ」と朝粥)

どんつき

石原慎太郎さん

が東京都知事を辞めて新党をつくるニュースが日本を駆け巡った。80歳にして意気盛ん23歳、まだ一橋大生にして「太陽の季節」で芥川賞を得た。その後作家・政治家・最近まで都知事と陽のあたる場所でご活躍されていた。

昨年4月の選挙で261万の支持を得て4度知事に選ばれた。その任期を三分の二を残して新党をつくと世界の大都市の知事を辞職された。何故!。初挑戦時、対立候補美濃部知事に「前頭葉の退化した60、70の老人に政治を任せる時代は終わった」の言葉を出されたらどうか。

自民党の総裁にご長男が選ばれていても新党をつくり、知事を辞められたらどうか。「公」の司である人の行動として疑問を持つ。四文字熟語で「公私混同」がある。知事や政治家は「公人」と崇められる職である。261万人が四年間託し職責は全うするべきと思うが、皆さんは?

次の都知事選挙、前回92.4%の票差で次点だった「東×原」さんが出るのでしょうか。マサカ!。泥鰌は2匹も不要とおもいますが。

1913年の七条大橋



来年は七条大橋竣工百年。お祝して上げたいものです。

編集 西条サカタニ

ヨシイちゃんの ひとりごと



てんでばらばら

岩手県の三陸海岸地域に「津波でんでん」という言葉がある

と知った。江戸時代初期の1611年(慶長16)に発生した慶長三陸地震について仙台藩の被害を表現した文中にある古くから伝承されていたものだぞうだ。趣旨は津波の時は人にかまわず、夫々自分を護れということ。

その言葉の響きから、祖母が、昔、丁稚さん達が仕事で自分勝手な行動を叱る時、良く使っていた「てんでばらばら」を思い出した。

子供の頃、外に遊びに出る際、「ご飯までにお帰りや」の音が掛かる。家族揃って食事が遅れると叱られた。家中が留守にする場合、両となりに行き先を伝えるのが常識であった。ヤンチャをする、何所の子であつた、わが子同様に大人が叱った。その様な中で、子供達は社会的「しがらみ」を覚えたもので、家族も地域も「てんでばらばら」ではなかった。振り返って、今の日本をみると「てんでばらばら」だらけではなからうか。

最近、新自由主義の風潮で特に最近酷くなった。新自由主義思想

は、個人の自由と尊厳を守るために、私的所有、法の支配、自由市場、自由貿易のような経済的自由が必要であり、規制や制限の少ない自由を支えられた社会は、多くの個人を幸福にする主張し、福祉政策は全体主義に繋がるという考え方だ。言わば土俵の無い相撲、重量制限なしのボクシングだから勝負は見えてる。

最近わかった異常な「尼崎連続変死事件」大津市の「イジメ事件」でも、もつ「昔ながら、近所の誰かが喚起して「被害者」が助かったり、友人間で防く手を打てたろうと思つ。過つて日本人は「向こう三軒両となり」とか「袖触れ合つても他生の縁」といふ

気持ちがあつた。が、何時の間にか「隣の芝は青い」が「隣は何をする人ぞ」と無関心になり、「てんでばらばら」状態になった。自然界では、弱いものは集まって種を守ってきた。強いものは、集まりから離れて襲つた。

「てんでばらばら」を得をするのは強者のみ、それで好いのだろうか?。昔、辛辣なボヤキ漫才で有名な「人生 幸郎・いくえ」さんならどう言うか想像して見ませんか。



朝粥会資料 カキナーレから転載 若者は年寄りをどう見てるか

ばつちゃん

ばつちゃんは世界一料理がうまい。でももつ一生食べられない。

ばつちゃんは世界一おしゃべりが好きだ。でももつあまり話さない。

ばつちゃんは今の私を親代わりとなつて育ててくれた。でももつ私は一人で歩いてしまつている。

小さな狭い部屋の、小さな狭いベットでちょよこんと座るばつちゃんを見ると、胸が痛くて人間の「老い」という仕組みに腹が立つてしかたがない。

ばつちゃんは昔の「ばつちゃん」

お金の要らない 長い生き方

8020運動 (はちまるにまるうんどう) をご存知ですか?

「80歳になつても20本以上自分の歯を保ちまう」といふ運動です。平成元年、厚生省(現・厚生労働省)と日本歯科医師会が提唱し、自治体、各種団体、企業、そして広く国民に呼びかけてきました。

なぜ、あえて8020

0といふ数字を掲げたのか、その理由は…… 智歯(親知らず)を除く28本

ではいらなくなつたけど、私は今でも「れから先も一生世界一ばつちゃんが好きや。(02年高3

孤独老人

私がバイトしているスーパーの中のマクドナルドは、子ども連れのお客さんが多い。

しかし、ここ最近、老人の客が増えた。スーパーの一階には広場があるのだが、その喫煙室はいつも老人であふれかえつている。店員のおばちゃんの話によると、老人たちは毎日ここに来て退屈をまぎらわしていると言つ。そついう孤独老人の多くがマクドの客としてくるのだ。

老人たちはたいがいポテトのS

にアイスコーヒを注文する。それを長時間かけて飲んで食べている。その姿は、なぜか小さく見える。その背中はさびしくまさに孤独を物語つている。

そんな老人たちを見ているのがつらくなつた私は、ある時話しかけてみた。その時の彼らの表情は今でも忘れられない。老人たちは一斉に私の方を見て、それから次第に笑顔に変わつていった。その日から私はできるだけ彼らに声をかけることにした。

「おじいちゃん、元気?」
最近の私は、バイト半分ボランティア半分気分です。スーパーに出かけている。(88年小西彩也佳)

の歯のうち、少なくとも20本以上自分の歯があれば、ほとんどの食物を噛みくだくことができ、おいしく食べられるからです。

「高齢になつても20本以上自分の歯を保ちましよう」といふのが、その主旨です。歯の本数が少ない人は、脳の容量が減つて認知症率が高いという統計もあるとか。噛むという行動は手足を動かすより複雑で極小さな異物を感じ、出す事も出来ず、左右の顎を動かし、筋肉を伸縮すると、歯と間の強力なネットワークがあり脳の血流や代謝が活性化すると言われます。

ある歯医者さんが、脳梗塞を起こし、命は助かったが、しゃべる、食べるが出来ない「麻痺」を食べないときでも力チ力チ歯を合わせたところ、マヒも良くなり話することも出来たのです。噛む事が効果的なりハビリになつたのでしょか。老化防止のパラチンのある唾液も長く出て老化防止につながるのです。自分の口を自分で動かすのですから時間制限も無し出て、お金は一円もいりません。実行するせんは貴方任せです。参考「文春新書」白澤卓一書より。

京都&東山 ぶらりピカリ

37

元和(げんな) キリシタン 殉教碑



七条大橋
のつ北の正
面橋東詰川

端通西側歩道に写真の「元和キリシタン殉教碑」が1967年設置された。その殉教のことは知っていたが、鞍馬石の「碑」があることを最近まで知らなかった。碑の下には、セラミックの壺が埋められており、中には52名の名前を記した赤いバラ(殉教を表す)のリボンや殉教地を示す地図などが入れられているとか。織田信長の後、秀吉が「キリシタンを禁教」とし徳川幕府もそれを引き継ぎ厳しい弾圧をく



わえた。
元和年間(1615~23)元和5(1619)(1579~1632)秀忠上洛に際し、ますます厳しくなった。秀忠

は伏見に改宗しないキリシタン投獄者のいることを知り激怒、彼等を牢から出し、みせしめのために52人が大八車に積み込まれ、京の七・六条まで引き回された後、27本の十字架に二人組で縛られた。夕暮れになると、十字架を囲む薪の輪に火が付けられた。老若男女の区別なく火あぶりの刑で六条河原で悲惨な最期を遂げた。

將軍の激怒と対照的に、殉教者は大いに喜んだという。彼らは、すべてをキリストに捧げるため熱心に準備し、最期まで立派に証しを立てた。中には母親の腕に抱かれた小さな子どもたちもいて、母親たちは「主イエスよ、この子供たちの魂を受けてください」と叫んでいたと言った。この元和殉教以後の京都ではキリシタンが歴史の表舞台に登場することはなかった。

この石標はキリシタン殉教の跡である六条河原を示すものである。京都市が建都300年を祝った1967年8月、鴨川のほとりに記念碑が建てられた。美しい鞍馬石に「元和(げんな)キリシタン殉教の地」と刻み建てた。
の絵は「心のもじり」
(2007年6月5900号)マクドナルド神父の記事より転載した。

市電が走った 京都を巡る

21

福田静二



千本出水を出た千本線の市電は、

北上を続けます。車窓から見える街並みは、ますます賑やかさを増して行きます。四百メートルも走ると、つぎの停留所「千本中立売」に到着です。

千本線が廃止になった昭和四十七年当時こそ、千本線だけの停留所でしたが、昭和二十六年までは市電同士が十字に交わる交差点でした。東西に横切る中立売通に、京都駅から北野を結ぶ市電北野線が通っていたのです。交通の便がよいこともあって、千本中立売付近は、昭和三十年代まで、繁華街として大賑わいでした。戦後生まれの私は、その当時の様子は知る由もありませんが、その賑やかさは、新京極と並ぶ繁華街として、人の波であふれていたと言われます。新京極に比べれば、うんと庶民的な繁華街でした。

その時代「千本ら」という言葉があって、北は今出川通から南は丸太町通までの千本通をぶらぶら散歩することが流行ったそうです。特に、今出川通から上長者町通までの約七百メートル、現在の「西陣千本商店街」付近は、商店がぎっ

しり並んでいました。市電廃止後には「千本ラフ」という愛称が付いていました。余談ですが、大阪では地名、とくに交差点名を短縮して、「天六」「上六」などと略して呼びますが、京都ではまずありません。ただ唯一の例外が千本中立売で、その略称「千中(せんなか)」は、それほど庶民的で、ゲタ履きでも行ける繁華街であったことの証しでした。

千中付近が繁華街として賑わいを見せるようになった背景は、日本有数の織物業地として栄えていた西陣があったからです。特に戦後になると糸ヘン景気が到来しました。織物業に従事する多くの職人たちが、就業後や休日には千中を目指したことでしょう。



賑やかな千本中立売停留所を出発

水上勉の『五番町夕霧楼』や、三島由紀夫の『金閣寺』にも登場する古くからの遊郭で、北野天満宮の門前茶屋から発展したと言われています。その存在が町の賑わいに果たした影響も大きかったことでしょう。

戦後の最盛期には、五番町の中だけでも、百軒ほどのお茶屋が軒を連ね、二百人以上の娼妓が在籍していたといいますが、その灯が消えてから五十年以上も経つと、当時の色街を物語る建物も数えるほどになってしまいました。そんな中で、千中の股賑ぶりを偲はせる建物が、五番町に残る映画館「千本白話」です。この付近に数多くあった映画館の中で、最後に残った映画館で、現在は成人映画専門館となっています。

この付近の千本線がなくなったのは昭和四十七年一月のことですが、前にも記したとおり、廃止が急だったため、ほとんど記録が残っていません。この千本中立売でも付近を写したものはなく、知人の写真を借りて掲載することになりました。その写真には、しっかりと停留所名も写し込まれ、付近の賑わいの片鱗を見せてくれました。いまの千本中立売は、整った街並みになっていますが、市電が走っていた時代のような雑然とはして、活気のある賑やかさは、もつ消えてしまいました。

酒屋で生きて 生かされて



売經驗からその人たちに「酒場」開業を薦めました。その店たちを「神馬会」に

第七十四話

千中の 神馬酒場

3分の1の「市電が走った京都を巡る」(別巻)の八店ありました。千中の神馬酒場は、その内の一軒です。同じ炭山出身で、名前も同じ「酒谷」ですが、どのよう

な関係かは判りませんが、今の当主の嫁は私の妹で「濃い親戚」になります。店は、家族で運営、料理も、祇園の一流店で修行した「甥」も加わり、「テレビや雑誌」で紹介される店になりました。少し有名になりましたが、高きは有りませんので「贗品」を



戦前(昭13)まで「酒屋は酒蔵から直接「桶」で買われ、自家で割り水・

調査し、壺や樽に詰めて販売することも出来た時代があり、私の店では、そのようにした上等酒を「神馬」並酒を「贗品」(きしょう)の銘で販売してました。店先の三分一はカウンター付きの酒場で、車夫や大工さん等の職人さんで賑わい、時には台所までお客に占領されました。祖父の代です。明治二十年代に、宇治山奥の炭山から京都へ酒屋に奉公し、大正三年に主家の津之奥の一字を付けて現在地の東で「丸津」店を構えました。当時は農村から町へ移動の多い時代、京都に親戚も多く移ってきます。祖父は自らの商

立木さん参りは 合理的な 厄逃れ

厄年は「災が多くなる」と言われる。お参りをされた方はご存知だろうか、お寺は石段を七百段上ってヤット本堂に着く。厄参りはそこから更に石段を上がり、小さな鐘楼の鐘をがらり、参拝者はひとつきして厄を落とす。さらに上へ登ると奥の院があり、ここには道了権現大菩薩が祀られている。毎月二日は縁日となっており多くの参拝客でにぎわっている。私も少年時と四十歳のころと二度お参りしたが二度目は、随分苦しかった。幸いにして78歳の今も元気、且つ厄年はもう無い年齢になってお参りは不要だが、先月号の「お金の要らない長生き方」で、長寿の

その寺伝では、85年(弘仁6)、空海(弘法大師)がこの地に立ち寄った際、瀬田川の対岸に光り輝く霊木を見つけたが川の流が速く、渡れないでいるところに白鹿が現れ、大師を背に乗せ対岸まで導いてく、その鹿はたちまち観世音菩薩に姿を蒸え、虚空に消え去ったという。時に、空海は厄年を歳であったとされ、近くに「鹿跳」と言つ地名もある。この奇跡に感服した弘法大師は霊木に五尺三寸の観世音菩薩像を彫刻し、それを本尊としてこの寺を建てた

「厄年」は平凡社の「大辞典」19は重苦、25は5×5=25、その後二重後とりなりして死後のこととし、33は3×3と重なるから散々とりなりし、42は4×2と続くから死(し)にとりなりして忌むという。又、平安時代は貴族は毎年厄払いをしていたと伝えられている



「厄年」は平凡社の「大辞典」19は重苦、25は5×5=25、その後二重後とりなりして死後のこととし、33は3×3と重なるから散々とりなりし、42は4×2と続くから死(し)にとりなりして忌むという。又、平安時代は貴族は毎年厄払いをしていたと伝えられている

編集後記

「とんからりん」も今号158号になりました。トントンと書ける時と「からりん」とかけない時があります。

10・11月は会社決算期が9月でその作業、その上に最大のイベント「駆伝ライブ」が重なり、ボージョー・ニューヴォーもある。そんな状況で記事が埋めにくくなりP2に「朝粥会」で深谷先生が配布された「カキナーレ」を使わせてもらった。

書いたために何度か読み返してもらったが夫々の文の勢いを感じた。そして読ませよとする気配を感じない素直な文だ。読んでいると書いた人が見えるように思えた。「文は人なり」と言つ言葉を感じ知らされた。依つて本号は尚、書き辛。

青年時代、和歌山や南山城の水害時支援に行った。今でいうボランティアだ。もつ60年も前になる。無欲で動けた。

行き掛かりで商売を手伝い、26歳時に本気に、そして今になる。余り強欲ではないつもりだが「損得」を計算する自分がある。

自分で自分をみて自分が嫌になることがシバシバだ。「とんからりん」はそれを罰する「鞭」かもしれない。もう暫くはお付き合いをお願いします。今、フェースブック挑戦中。友達になって！